

コミュニティ野洲

鈴木市朗

【市政関連・新幹線負担】

問 『新幹線栗東駅の負担金は発生しない』の市長公約があるが。

答 昨年10月『今の段階では出せない』と発言した。その後、県や関係自治体負担が明確になり、野洲市としても負担を決定し、議会に提案。

【財政関連】

問 16年度一般会計決算では依存財源が55・9%と極めて高く、財政力指数も0・929と大幅に低下。

答 更に、依存財源の多くが市債（借金）、高額の公債費（返済）、基金も大幅減と厳しい財政。18年度予算編成所見を求めらる。

答 法人税をはじめ市税の増収が見込めない。また、三位一体改革の地方財政効果も期待できない。堅実な予算編成に努力する。

【住民福祉関連】

問 少子高齢化対応 出生率の減少傾向、少子高齢化に拍車がかかる。その対応。

答 17年3月、今後の子育て支援の方向性や目標を「野洲市子育てサポートプラン」で策定。積極的に取り組んでいく。

問 平成18年度に全国一斉に介護保険料が改定され、大幅な保険料の高騰が予測されるが、本市の抑制課題の検証と手法は。

答 本市でも介護サービス利用者等の増加により、保険料は増加傾向にあるが、制度改正の趣旨に沿って、一貫性・連続性のある予防重視型システムを確立し、抑制に努める。

【産業土木関連】

問 JR複々線化 用地の先行取得等、莫大な資金を投資している。行政の考えを問う。

答 今年度より、湖南総合調整協議会（湖南4市）

の重要施策と認識し、事業化を要望していく。
問 野洲―篠原間新駅 新設祇王駅は、当該地区の新たな街づくりには不可欠。見解を伺う。

答 課題は多い、野洲市総合計画での位置付けを明確にし、検討していく。

問 工業団地イオン出店 イオン誘致問題はその後何の説明・報告もない。所見と進捗説明を求め。

答 9月1日出店に係る覚書締結。今後も商工会との支援策協議や連絡協議会を設置し課題検討する。

問 17年の税制改正で農業所得部門が青色申告となるが対応は。

答 税務署の説明会開催や、農業関係団体への協力を依頼している。

【嘱託・臨時職員採用】

問 図書館の司書採用には38人の応募があったが、どのような経緯で採用したか。

答 筆記試験、論文や面接を実施し、適正と判断された5名を採用した。

豊政会

原田 薫

【行財政改革】

問 18年度予算、収支バランス見込みと合併特例債事業の優先順位、規模。給食センター建設、減額できる規模、工事内容。

答 税財源は17年度の水準確保は困難。歳出予算は堅実、大胆に編成。合併特例債事業は市総合計画を策定し適債事業を見極める。

問 学校給食センター建設は用地取得、基本計画・設計発注、設備等の検討中。最小経費で最大効果を得られるよう進める。

答 学校給食センター建設は用地取得、基本計画・設計発注、設備等の検討中。最小経費で最大効果を得られるよう進める。

【少子高齢化の今後の取り組み】

問 兵主地区に保育所新設を。高齢者対策として、地区特性に見合う取り組みが必要。高齢化した住宅団地の活性化対策は。

答 兵主の保育園は庁内で検討。高齢化対策はだれもが安心して住みなれた地域で健康で生きがい

をもって暮らせるよう各種事業に取り組む。住宅団地の活性化策は「団塊の世代の人材活用」をキーワードとして取り組む。

問 河川改修自主防災組織の現状、防災行政無線を利用した防災訓練の実施。犯罪の広域化、国際化、凶悪化の現状と対策は。

答 「河川改修」については国、県に積極的な要望活動を行う。自主防災組織の結成を自治会に依頼。防災行政無線活用通信、伝達、避難誘導訓練。治安、防犯は「街頭犯罪抑止総合対策」を警察・地域住民一体となり推進する。

問 農業は従事者だけのものでなく、食料自給、環境保全なども結びついている。農業に対する考え方は。

答 国民に食の安全、健全な食生活に関心が高まっている。国、県、農協と連携し担い手の育成・確保に取り組み、集落営農の育成・法人化を支援。

【農業問題】

問 市民参加、「協働」が市役所の単なる埋合わせに利用されている。「協働」とまちづくり基本条例のあり方。個人情報保護法と地域コミュニティの方策は。

答 市民との協働は「個人でできることは個人。個人でできないときは団体。団体でできないときは行政とともに」が基本。「まちづくり基本条例」は①協働についてのルールの明確化②市民参画の機会を拡充、情報の共有③協働していける人の輪づくりと継続、が基本。最高法規制を持つ。個人情報保護法でのコミュニティ活動は自治会で各世帯了解の聞き取りによる世帯名簿等を作成、管理するしかない。日常の「繋がり」が基礎。（学校の安全対策と市役所の構造改革についての質問もありました。）

一般質問

市のゆきえは

9月定例会、25名の議員が質問

市内循環バスの

拡充、強化を

藤村洋二

問 待望の市内循環バス

4台4路線がバスの運行してない地域にも走るようになった。健康福祉センターではお年寄りや障害を持つ方の利用が増え、降りてこられる皆さんの笑顔を見て本当に良かったという声を聞き、更なるバスの拡充、強化が望まれる。

一方、市内循環バスの乗車が少ないことを理由

検討課題とする

市民健康福祉部長

答 市内循環バスは高齢者、障害者福祉として、

また、地域の活性化からも重要な施策である。利用される障害者や高齢者は非常に喜んでおられるが、一部利用者が少なく循環バスの再考が必要という意見も聞かれる。

乗車の少ない原因はダイヤと運行系統にあるとの意見も踏まえ、今後、

に、無駄だから廃止せよとの声もある。原因は①

ダイヤ編成が利用者の望むダイヤになっていない
②コース設定に無理があり時間がかかるなどが考えられ、早急なダイヤ、系統の見直しが望まれる。既存バス路線の高齢者割引制度なども導入し、市内循環バスを含めたバス路線の再検討が必要。

野洲市バス対策地域協議会やプロジェクトチームで、乗客数等のデータの

検証や課題分析をし、利用していただけるよう研究する。

また、既存バス路線の高齢者割引の補助制度はないが、今後他市の取り組み等を参考に検討課題とする。



市内循環バス

その他の質問

保育所、図書館など公であるべき施設の指定管理者制度について市の姿勢。

